

# 学喟越記

—発音吧文字—

野間 晃

抄録：本編は筆者がベトナム語の発音と文字の学習にあたり、手に取ることのできた教科書・辞書・研究書の概要を紹介したものである。音韻体系に関するもの4冊、ベトナム漢字音に関するもの1冊、日本語によるベトナム語辞書1冊、字喃に関するもの4冊、“quốc ngữ”に関するもの1冊、中国語による各分野のベトナム語研究書6冊、ベトナム人の漢詩作品に関するもの3冊の、計20冊を紹介した。

キーワード：冊研究発音喟越・字喃・詩漢

## 1. はじめに

本編は、筆者がベトナム語の発音と文字を学ぶにあたり、手に取ることができた書籍（単行本、各種教科書を除く）を紹介するものである。

内容は、ベトナム語学習の過程でたまたま巡りあった書籍を並べ、概要を付しただけであって、体系的にも網羅的になっていないこと、また内容についても表面上の記述しかされていないことを、予めご承知いただきたい。

文中における書籍に関する記載は、日本語・ベトナム語・英語を原文通りに表記し、『 』で書名を、「 」で編名を，“ ”で専門用語を、半角のカッコ（ ）で筆者による日本語訳を表わした。ベトナム語における“漢越語”については、必要に応じ quốc ngữ《国語》のように、《 》で筆者が漢字を付した。漢字は中国の出版物に言及した箇所を除き、すべて現代日本語で用いられている字体による。

なお、“chữ nôm”は本来“chữ nôm”を用いて“字喃”と表記すべきであるが、ここでは日本や中国における習慣の通り、書名を除き“字喃”と表記する。

文中で引用する書籍は、著者／書名／出版元／出版年／総ページ数の順に表示する。なお、以下で紹介するベトナムの出版書の奥付には、その版の出版年が記されているのみであり、初版年や改版の有無については記されていないので、これらをそのまま記してある。

それぞれの書籍の著述に用いられている言語（日本語・ベトナム語・英語・中国語）は、すべて書名に用いられている言語に同じである。

初出の際、書名に☆印を附した資料は、北海道文教大学鶴岡記念図書館の蔵書（2016年3月現在）である。筆者に資料収集の機会を与えて下さった北海道文教大学に対しては、深く感謝したいと思う。

## 2. 音韻体系の記述

ではまず、音韻体系を記述した書籍について述べよう：

1. Nhiều Tác Giả（著者多数）／A Concise Vietnamese Grammar ☆

／ Nhà xuất bản Thế Giới ／ 2012 ／ 151p.

本書は小冊子ではあるが、学習者を困惑させる quốc ngữ と実際の発音とのズレについて、声調を除く音節の各構成要素 (The onset (声母)・The rhyme Rhyme (韻母)・The glide (介音)・The nucleus (韻腹)・The coda (韻尾) ごとに、くまなく実例を挙げ、その理由を説明している。

正書法 quốc ngữ が、一つの音素に対し、条件異音により、それぞれ (あるいは一部に対し) 異なった表記法を取っている (または、表記法が合同する ~ These three variants should have shared the same orthographic form ~ のように不均等に合同する場合も含む) 実例と、その理由があるものについては、異音の性質や、その原因となった西洋人の発音習慣などを述べている。

介音については、ベトナム語唯一の介音は /w/ であり、It is important to remember that /w/ is combined with the rhyme in a less controlled manner, so it is not taken into consideration in writing poems と言及している。

方言差に関しては、声母に関し、北部において、そり舌音が対応する歯音と合流することと、/r/ が一部海岸地域にしか存在していないことを述べるのみであり、/z/ の消失や、/v/ → /z/ の変化、/ʃ/ と /s/ の合流、また、韻母に関する、/ -t / と / -k / の交代、声調に関しての、thanh ngã と thanh hỏi の合流などについては言及されていない。

以上の、正書法と実際の発音のずれから方言差に至る各点について、網羅的に詳細な記述をしているのは、やや古いものに以下の著作がある：

2. Laurence C. Thompson / A Vietnamese Reference Grammar ☆ Previously published as a Mon-Khmer Studies XIII-XIV / University of Hawaii Press / 1987 / 386p.  
(Originally published as A Vietnamese Grammar, University of Washington Press 1965)

本書は、ページ数の三分の一弱にあたる三章を発音に関する記述に割いている。

Chapter 1. Introduction to Vietnamese pronunciation は、Standard pronunciation として、quốc ngữ の Hanoi における音価を IPA で詳細に記述する。

Chapter 2. Hanoi phonology は、Chapter 1. で記述された音系に対し、条件異音を提示しながら、音韻論的分析を加える。

Chapter 3 Writing System は、quốc ngữ の歴史から説き起こし、表記法の特徴、もともなった西洋各言語の表記法との関係を紹介し、句読点の用法についても触れる。

Chapter 4 Dialectal variations は、Tonkin・Vinh・Huế・Đà-nẵng・Ban-Annam・Saigon・Southern Cochinchina と、各地の音系を Hanoi および隣接の音系と対照させながら、北から南へ段々と変化していく様を記述している。Saigon については、特に節を立て、詳述する。最後には、quốc ngữ の各声母・韻母・声調の、Hanoi : Vinh : Hue : Đà-nang : Saigon : Tra-Vinh における音価の対応関係一覧表を付す。

なお、Chapter 7 Derivatives には 2 音節語重ね形のうち、声母・韻母・声調が全て同じ、または 1 つ以上が同じである語彙を紹介し、その類型について論じている。

3. Andrea Hoa Phan / Vietnamese Tone A New Analysis / Routledge / 2003 / 181p.

実験音声学研究成果として、声調について実験図と解釈を示している。

#### 4. Huỳnh Công Tín / Tiếng Sài Gòn ☆ / Nhà Xuất Bản Chính Trị Quốc Gia / 2013 / 308p.

本書は、Sài Gòn 音系を専門に記述した著作であり、1999 年にホーチミン市人文社会科学大学に提出された、博士論文「Hệ thống ngữ âm của tiếng Sài Gòn (so với phương ngữ Hà Nội và một số phương ngữ khác ở Việt Nam)」を補充改訂したものである。

第 1 章においては、“Sài Gòn” について、その名の由来・略史・領域・住民の特色・風俗習慣について述べる。

第 2 章においては、Sài Gòn 音系について、音節の構造・音節の成分を示し、Quốc の音価を、語句の中における豊富な実例により記述している。

第 3 章においては、第 2 章で記述された音系を、Hà Nội・Nghệ Tĩnh・Trà Vinh 3 地の音系と豊富な実例により対照させ、最後には前人の研究成果を紹介する。なお、第 2 章および第 3 章の声調に関する記述は、音響音声学の研究成果を用いている。

第 4 章においては、Sài Gòn 音系のベトナム語音系における位置づけと役割を、時代による変化を含め論じる。正書法を学ぶ際の問題についても触れている。

第 5 章は結論であり、Sài Gòn 音系の系統化として、前の章で論じられたことをふまえ、各音素の出現する環境・他地域の音系との対応関係・Sài Gòn 音系の特色に関するまとめの概論である。

付録として、各音素の現れる実例 (quốc ngữ による)：条件：地域の対応表、Sài Gòn のほか第 3 章で言及された 3 地の音韻体系一覧表、音響音声学による声調の記録などが付されている。

### 3. 越南漢字音の研究

#### 5. 三根谷徹 / 中古漢語と越南漢字音の研究 ☆ / 汲古書院 / 1993 / 543p.

本書は、著者による中国音韻学と越南漢字音研究著作集であり、第一部「中国音韻学の研究」は韻鏡の音系と中古音系、および越南漢字音との関係など、更にベトナム語の声調体系、漢字の影響とローマ字への移行などを研究した論文が集められている。

第二部「越南漢字音の研究」は、もと

#### \* 三根谷徹 / 東洋文庫論叢第五十三 越南漢字音の研究 / 東洋文庫 / 1972 / 171+131p.

として刊行されたものである。まず、越南漢字音の資料として、辞書と漢字学習書を挙げ、それらから導き出される音韻体系を解説し、次に中古漢語の音韻体系を概観した後に、中古漢語と越南漢字音の音韻体系を比較対照、最後には以上の研究から導かれる越南漢字音の成立について論じる。巻末の「越南漢字音対照表」は、中古漢語の音節表に越南漢字音をあてはめたものであり、部首引きで再構築音を記した「中古漢語索引」が付されている。

### 4. 辞書

ここでは日本で出版された代表的な辞書一冊のみにについて述べる。字喃辞典については、字喃の項にまとめる：

6. 川本邦衛（編）／詳解ベトナム語辞典 ☆／大修館書店／2011／2005p.

まえがきによると、(この段のみ( )内は筆者の補充である)本書はおよそ 55,500 語を quốc ngữ 表記による見出し語(親字)として収録(すなわち漢和辞典の形式による)、日常口語を全般的に網羅、新聞や雑誌などに見える専門語や非口語語彙(更に古典に見える一部の語彙)もおおむね包括している。

見出し語は quốc ngữ により声調を含む一音節ごとに立てられ、国際音声記号による標音が行われている。同じ音を持つ漢字をまず全て列挙してから、字義(品詞を付す)ごとに(漢越語は)漢字、用列(語彙、分、句)、由来(フランス語など)を示す。

以上の字義の説明が終わると、当該の見出し語から始まる語彙を、字義の別に関係なく abc 順に配列、漢越語については漢字を付す(ただし、chính “正” mình のような、一部分が固有語である語彙については漢字を付さない)。

巻末には、「ベトナム語簡説」と、漢字の部首引きによる「字音検索表」が付されている。

## 5. 字喃

ここにおいて述べる“字喃”には、特に言及する場合を除き、字喃と漢字混じり文の中で用いられる漢字も含むことにする。最初に、概説書について述べよう：

7. Vũ Văn Kính／Học Chữ Nôm 学字喃 ☆／QUANG BÌNH／2011／187p.

小冊子ではあるが、管見の限り唯一の字喃入門書かつ概説書である。

まず、字喃が生まれた経緯、創作者について説いた後、「Phân tích cách cấu tạo chữ nôm “分析格構造字喃”(字喃の構造、形式分析)として、実例と意義を挙げ用法を解説する。まず漢字の用法としては、越南漢字音＝意義(ベトナム語と中国語が同字)、当て字、訓読、“仮借”(その字の越南漢字音に類似した音を意義として用いる一種の訓読)を、次に字喃の造字法としては、会意と形声を挙げる。この形声文字の解説が本書全ページ数の半分近くを占める。

この後には、17 世紀の作品における前世紀までと異なる字喃、例字・quốc ngữ・表による南部音と âm chung(《音中》標準音)との違い、字喃を読む経験(どの音・意義で用いるかの探求)、字喃の長所と短所が続く。字喃をどの音・意義で用いるかの探求については、前の部分においても個別の例により詳述されている。

最後は、字喃による 7 作品の影印に対し、“phiên âm”(《翻音》(quốc ngữ への転写))を挙げ、最初の『詠翹』(朱孟楨著)については一字一字について字義の解説を行っている。

では次に、日本・ベトナム・アメリカで出版された字喃辞典を一冊ずつ紹介しよう。

8. 竹内与之助（編）／字喃字典／大学書林／1988／694p.

はしがき・解説とも極めて簡潔であり、はしがきには引用文献、解説には字喃の簡史と、分類された造字法を実例を挙げながら示す。収録された字数は明記されていないが、本文 1 ページに収められ

たおよその字数から推測（重掲も別字として計算）すると、9500字は下らないであろう。

本文では、quốc ngữ の ABC 順に対応する字喃を挙げ、それぞれの字喃につき、組み合わせ・借用・略字・変音（同義）に分類して（それぞれ元の字を示し、意符については意味を、音符については quốc ngữ を示す）成り立ちを分類し、大部分の字喃については例語・例句を示している。

巻末には、字喃の総画索引（各字について quốc ngữ 表記がある）を付す。

なお本書における漢字の収録は、“借用”により中国語の意味とは違う意味を持つ字に限られ、漢越語の漢字を網羅的に収めている後掲の二書とは異なる。

9. Vũ Văn Kính（編）／Đại từ điển chữ Nôm ☆／Nhà xuất bản Văn hoá-Thông tin／2014／1598p.

上記の『Học Chữ Nôm』の著者 Vũ Văn Kính による編集である。巻頭の紹介の辞が 1998 年の日付となっており、著者による序には言及や日付がないことから、重版かと思われる。

巻頭の紹介では、著者 Vũ Văn Kính の経歴と業績、氏の辞書編集歴、字喃のベトナム国内および外国における研究、氏の研究による貢献、字喃研究の難しさなどが述べられている。

編集者による序では、本書編纂の目的と意義、および本書には 37000 余字、7000 余音が収められてと述べている。

本書の解説部分は、『Học Chữ Nôm』を辞書の解説とするため、内容の削除・補充・整理が行なわれたものであると考えられる。相違点を記すと以下の通りである：

まず、形声字は例字がほとんど削除され、一部分を音／意符／義符／（一部）義の表にして挙げるにとどまっている。

次に、南部音と âm chung（標準音）との違いについては、音声の対応表に加え、南部において特に用いられると思われるものを列挙する。これらの字には、『Học Chữ Nôm』に収められていないものも多い。

字喃文献解説は全文削除されている。

次に本文では、quốc ngữ の ABC 順に、まず漢越音として漢字を挙げ、quốc ngữ により用例を記す。次に対応する字喃を挙げ、それぞれの字喃につき、ÂHV : Âm Hán Việt 《音漢越》, ĐN : Đọc nghĩa 《読意》, GT : Giả tá 《仮借》, HT : Hải thanh 《諧声》, HY : Hội ý 《会意》, “LVT : Lục Vân Tiên 《陸雲仙》, QATT : Quốc Âm Thi Tập 《国音詩集》のようなローマ字の略字により、出典・造字法（字を構成する各部分の漢越音も示す）を示している。漢越語とは異なる発音を持つ漢字については、字喃の中に配置し、漢越語としての音を付している。

巻末には、参考・引用の文献資料一覧と、quốc ngữ による総索引を付す。

10. Nguyễn Hữu Vinh・Đặng Thế Kiệt・Nguyễn Doãn Vượng・Lê Văn Đặng・Nguyễn Văn Sâm

・ Nguyễn Ngọc Bích・Trần Uyên Thi（以上共同編者）

／ Tự điển Chữ nôm Trích dẫn 字典字喃摘引

Dictionary of Nôm Characters with Excerpts（以上書名）

／ Viện Việt-Học (Institute of Vietnamese Studies) Cơ sở Xuất bản Việt-Học

(Viet-Hoc Publishing Department) USA（以上出版元）／ 2009／1679p.



本書は、前書きによると世界各地の専門家による共作であり、2005 年よりインターネット上で公開されていたものを修正改訂したものである。収録された字数は明記されていないが、巻末の索引から推測すると、9000 余字である。

本書は字喃を、巻頭において書名・作者・出版社・出版年（欠あり）が詳細に列挙された字喃文献 69 種より trích dẫn “摘引（引用）”された実例を提示し解釈した辞書である。

quốc ngữ の 1 音を親字として立て、その音を持つ字喃を羅列し解説する上記 2 種の辞書とは違い、字喃 1 字を大文字で見出し、即ち親字（本書では親字を mục từ 《目次》と、字義を付す親字を mục từ chính 《目次正》と称する）とし、その右に大文字の quốc ngữ を付し、親字はその ABC 順に立てられている。異音があれば大文字の quốc ngữ の下の（ ）内に示される。

以上の下に、部首・部首を除いた画数と総画数・Unicode（前書きには、10000 字以上の字喃が Unicode を持っているとするが、本書に収録された字喃には Unicode を持たないものが少なくない）、以上で見出しを構成する。親字の字義が書中の別の箇所にある mục từ phụ 《目次副》と称されるものは、手の印でその箇所を示し、再度字義を加えることはない。

次の字義の部分は、見出しの音を持つが意味の違うもの、（ ）内の別の音を持つものに 1 ①～の番号が付され、それぞれについて、字義の拠るところが、各種の Âm 《音》であるのか、Ý 《意》であるのか分かるように表示されている。この cách cấu tạo 《格構造》（構成形式）には 15 種類あり、巻頭の使用法の説明に実例が挙げられている。

字義に関する quốc ngữ による解釈は一部にしかなく、ほとんどの例は、字喃文献からの引用文（字喃と quốc ngữ を並列、出典先を付す）により意味を理解するようになっている。

なお、字義の中においては、quốc ngữ を（ ）で囲むか否かにより、漢越音（囲むもの）と mượn âm（借音、その漢字はベトナム漢字音では読まず、その字をベトナム語に翻訳して読む）を区別する。

巻末には、69 書の引用文献の影印を 1 書について 1 ページずつ掲載し、また、部首索引を付す。

## 6. Quốc Ngữ “国語”

現在のベトナム語正書法である quốc ngữ について、その歴史を振り返ったものには、以下の著作がある：

### 11. Trần Nhật Vy / Chữ Quốc Ngữ / Văn hóa Văn nghệ / 2013 / 262p.

本書は quốc ngữ の考案から、20 世紀初頭に至る quốc ngữ を振り返っている。17 世紀に前半における、イエズス会のフランス人宣教師 Alexandre de Rhodes による quốc ngữ の考案、教会における学習と使用、フランス統治者による quốc ngữ の採用と強制に対するベトナム人の反抗、教会学校における教育、ベトナム人の文字になるまでの変遷、quốc ngữ による新聞など出版物の出現、20 世紀初頭における quốc ngữ を用いた韻文と散文、「東京義塾」、quốc ngữ の流行と伝播、1865 年の quốc ngữ による初めての新聞発行などが、写真を多く伴いながら述べられている。

巻末には付録として、18 世紀末から現代に至る、quốc ngữ で表記された文章を多数掲載している。

## 7. 中国出版の書籍

ここでは、中国で出版された書籍について、分野によらずまとめて紹介しておこう。

### 12. 傅成劼・利国／越南语教程 第一册／北京大学出版社／2005 年（第 2 版）／300p.

全 4 冊からなる、高等教育機関のベトナム語専攻課程 1・2 年生用の教科書で、半年の 1 学期ごとに 1 冊使用されるようになっている。1989 年出版の『越南语教程』全 3 冊を改訂したものである。

第 1 冊目の 3 分の 1 が発音にあてられており、声調の高低に関する記述は、筆者の観察しているところに近く参考になった。同じ音素を条件により異なった表記法を取る複雑な正書法についても、条件異音の音声表記と共に、詳細な解説がなされている。

### 13. 劉玉珺／越南漢喃古籍的文獻學研究 ☆／中華書局／2007 / 500p.

本書は、中国からベトナムに伝わった中国古籍、ベトナムの漢文古籍、字喃の古籍について、歴史的な交流・伝播の背景と、古籍の版本や内容や特色から述べたものである。内容は：一、古代の中越間の書籍交流(伝播の概況と文化的背景)、二、ベトナム古籍の印刷本と手写(系統・形式と手写の種類)、三、ベトナム古籍目録研究(目録の編集と分類法)、四、文献の特色(内容の種類、北書と南書の伝播)、五、ベトナム北使と詩賦外交(北使の創作と中越文学交流)、六、ベトナム、敦煌民間文本の比較研究(研究の意義、唐詩の流伝、著者名)、「附録」として、「越南漢喃古籍目録提要の検討」を付す。

### 14. 汉语 800 词编写组(編)／汉语 800 字 ☆／外语教学与研究出版社／2009 / 536p.

本書は、『汉语 800 字』のベトナム語版である。多数の教材と辞典、及び留学生に対するアンケートによって選び出された常用 800 漢字(ピンインの ABC 順)について、品詞(名詞・動詞・形詞(形容詞)・数詞・類詞・代詞・副詞・介詞・連詞(接続詞)ごとのベトナム語による解釈と、それぞれについて当該の用法を含む中国語の例(単語または / 及びフレーズまたは文章、ピンイン付き)にベトナム語の翻訳が記されている。巻頭には部首による索引を付す。

### 15. 孫衍峰／越南语文化语言学 ☆／世界图书出版公司／2011 / 375p.

本書は、ベトナム語とベトナム文化との関係を、以下の諸分野に分け実例を提示しながら詳述している：一、研究の意義・目的・対象・方法、二、総論(地理および人文環境・言語および文化の特色・言語と文化の関係)、三、文字(漢字・字喃)、四、語彙(自然生態・物質生活・空間方位・動植物・数および色彩・身体器官・飲食)、五、越漢語(定義・発音・分類・語義)、六、語法(構造・形式)、七、修辞方式(分類と実例)、八、呼称(系統と類型)、九、人名(命名が反映する文化的心理・命名原則)、十、地名(言語学的特徴・政治歴史文化・経済および社会・民族心理)。

### 16. 梁远・祝仰修／现代越南语语法／世界图书出版广东有限公司／2012 / 454p.

ベトナム語の概説書であり、第一章 越南語概述(越南語概説)に続く第二章 越南語的语音与文字(ベトナム語の音声と文字)では、簡潔にベトナム語音声と特徴や、正書法とのずれ、変化について、また、正書法の歴史について概説書されている。

以下は、第三章 词汇综述(語彙総説)、第四章 单纯词和合成词(単純語と合成語)、第五章 词组(連語)、第六章 外来词(外来語)、第七章 重叠词(重複語)、第八章 名词(名詞)、第九章 类词和单位词(類別詞と単位詞)、第十章 动词(動詞)、第十一章 形容词(形容詞)、第十二章 数词(数詞)、第十三章 代词(代名詞)、第十四章 副词(副詞)、第十五章 关联词(介詞と接続詞)、第十六章 感叹词(感嘆詞)、第十七章 语气词(語氣詞)、第十八章 助词(助詞)、第十九章 句子与句子成分(文と文の成分)、第二十章 句子主要成分与句型(文の主要成分と文型)、第二十一章 单句(単文)、第二十二章 复句(重文・複文)、第二十三章 语用句型(語用文型)、第二十四章 语词连接手段(語句の連接手段)、第二十五章 句子与句子成分的变化(文と文成分の変化)と続く。

17. 罗启华／语言的亲情—越南汉源成分探析／华中师范大学出版社／2013／391p.

本書は、ベトナム語と中国語の密接な関係について概説したものである。一、「ベトナム言語文字とその中国語成分概説」では、二言語の特殊な関係から説き起こし、字喃・quốc ngữの内容と中国語との関係、ベトナム語における中国語成分の類型と、漢越音の形成・音系・由来の概説を行っている。二、「漢越読音」は本書の主要部分であり、ベトナム語音系から見た中国中古音系との、声母・韻母・声調の対応関係を、多数の実例によって体系化している。三、「漢越詞語」は、“詞素”(morpheme)について、漢越対応関係と造語法を紹介し、合成語の実例と形成の背景、熟語、中国語式の語彙などを記している。四、「俗成漢越語」では、文語における中古音のとは異なる、俗成漢越語の音韻対応関係を系統に分類している。五、ベトナム民族の言語的智慧では、中国語からの吸収方法の変遷・創造・現状について、それら個々の例を挙げながら説明している。

## 8. 漢詩に関する著作

最後に関連分野として、ベトナム人の漢詩に関する著作について述べておこう。

18. Lê Xuân Đức／Thăm bình thơ chữ Hán Hồ Chí Minh ☆

／Nhà Xuất Bản Chính Trị Quốc Gia／2015／631p.

本書はホーチミンの漢詩作品160首に対し、quốc ngữによる注音・詩形式のベトナム語による翻訳・解説を付したものである。

著者のまえがきによれば、ホーチミンには『獄中日記』の133首、『獄中日記』のほかに47首、更にベトナムと中国の研究者が発見収集した11首の、計181首の漢詩がある。

本書で原文と共に提示されている現代語訳は、前人による詩形式を取ったものとなっているので、著者による、詩形式に束縛されない翻訳による補充、翻訳の訂正、解釈と鑑賞、内容による分類、唐詩などの典故、詩作時の歴史的背景などが解説されている。



『獄中日記』には、以下の邦訳本がある：

19. 秋吉紀夫（編訳）／獄中日記 詩とそのひと／飯塚書店／1969 初版（1975 2 刷）／234p.

日本語訳と解説のほか、ホーチミンの詩に関する総説・創作の歴史的背景・ホーチミンの文芸理論が収められている。

有史以来 20 世紀の南北分裂に至るベトナムの歴史を概観しながら、それぞれの時代を背景とした詩の作品を多数紹介した書籍として、上記 6『詳解ベトナム語辞典』の編者川本邦衛による以下のものがある：

20：川本邦衛／ベトナムの詩と歴史／文藝春秋／1967／525p.

漢詩については、原文・書き下し文・註釈・翻訳を、字喃による詩については、翻訳を記している。

## 9. まとめ

本編は筆者のベトナム語学習開始にあたり手に取ることでできた書籍のみを紹介したものであって、元々量が少ない上、分野や内容に偏りがある。各書籍の内容については、概要を要約し、特徴を指摘した（章・節の紹介を含む）。今後は更に研究を深め、より多くの資料に接し、内容を論評できるようにしたいと考えている。

## **Vietnamese Study Notes:**

### Pronunciation and Characters

NOMA Akira

**Abstract:** This paper outlines textbooks which the author, a beginner of Vietnamese pronunciation and characters, could obtain. They are 20 books in all, 4 books for the description of phonological system, 1 book a Vietnamese reading of Chinese characters, 1 book a Vietnamese-Japanese dictionary, 4 books for “chữ nôm,” Vietnamese original characters derived from Chinese characters, 1 book for “Quốc Ngữ” Romanized modern Vietnamese official orthography, 6 books which were published in China for each field, and 3 books for Chinese traditional style poetry composed by Vietnamese people.

**Keywords:** Vietnamese, chunom, Chinese traditional style poetry